

序論)

みなさんは、私達が信じている神様が馬鹿にされたらどうするでしょうか。「神なんかいない」「聖書の神なんて他の宗教の神と同じなんだ」と言われたらどうするでしょうか。

今、私達はアッシリアの王セナケリブがエルサレムのヒゼキヤ王に対して、「アッシリアは他の地域の占領し、そこの神々も征服していったのだから、イスラエルの神もお前達を救うことなんてできない。」と【主】を馬鹿にした手紙をアッシリアが出したところまで読んできました。

実際にはエジプトが動き出したことを聞いたセナケリブが焦ってヒゼキヤとユダの人々を早く降伏させようと思って書いた手紙だったのですが、ヒゼキヤはこの【主】を冒涇する手紙を受け取ったとき、【主】の前で黙っていることはできませんでした。

彼は【主】の宮にいてこの手紙を広げ、【主】に祈り、そして、そのヒゼキヤの祈りを聞いた【主】は、彼に答えてくださったのです。

1) 要約

今日の箇所は大きくわけると2つのことが書かれています。一つはヒゼキヤの祈り、そして、もう一つはそれに対する【主】の回答です。

1. ヒゼキヤの祈り

ヒゼキヤはどのような祈りをしたのでしょうか。16-20節を読みます。

37:16 「ケルビムの上に座しておられるイスラエルの神、万軍の【主】よ。ただ、あなただけが、地のすべての王国の神です。あなたが天と地を造られました。

37:17 【主】よ。御耳を傾けて聞いてください。【主】よ。御目を開いてご覧ください。生ける神をそしるために言ってよこしたセナケリブのことばをみな聞いてください。

37:18 【主】よ。アッシリアの王たちが、すべての国々とその国土を廃墟としたのは事実です。

37:19 彼らはその神々を火に投げ込みました。彼らが神ではなく、人の手のわざ、木や石にすぎなかったので、彼らはこれを滅ぼすことができたのです。

37:20 私たちの神、【主】よ。今、私たちを彼の手から救ってください。そうすれば、

地のすべての王国は、あなただけが【主】であることを知るでしょう。」

要約すると、彼は、高慢になっているアッシリアの王セナケリブからヒゼキヤたちを救い出し、地のすべての王国が、【主】が神であることを知るようになることを求めています。

## 2. 【主】の回答

それに対して【主】はどのように答えられているかと言うと、後で読むので今は読み上げませんが、要約すると、【主】は「ヒゼキヤのセナケリブに対する訴えをちゃんと聞いた。」と宣言され、その上でセナケリブについて、『彼は、彼が蔑んだエルサレムに蔑まれ、<sup>あざけ</sup>嘲られることになる、セナケリブの自分の功績を誇って思い上がっているが、お前のやったことは、全て【わたし】が行い、計画したことである。【わたし】はお前のことをすべて知っている。その上で、お前の高ぶりが【主】の耳に届いたので、家畜のように来た道に引き戻す』とされています。

### 2) わかること

この箇所からわかることは2つあります。

#### 1. 【主】は祈りに答えてくださるお方である。

一つは、【主】は祈りに答えてくださるお方である。ということです。

前回、アッシリアの将軍ラブ・シャケの挑発を聞いた時もそうでしたが、ヒゼキヤは敵の挑発に対して自分で彼らに対応しようとせず、すぐに【主】の宮にいき、【主】に対して祈りました。

しかもすぐにお問い合わせをするのではなく、まず最初に自分の【主】に対する信仰を告白し、そして、その【主】に自分たちが置かれている現状を告白し、その上で「救ってください」とお願いしています。しかも、ただ救ってくださいではなく、地上のすべての王国が、【主】を知ることが願っての求めでした。20節を改めて読んでみましょう。

37:20 私たちの神、【主】よ。今、私たちを彼の手から救ってください。そうすれば、地のすべての王国は、あなただけが【主】であることを知るでしょう。」

そして、【主】はヒゼキヤがこのように祈ったからこそ、アッシリアへの預言を語られました。

みなさん、ヒゼキヤの祈りに対する【主】の回答は、そのほとんどがヒゼキヤに対してではなく、アッシリアの王セナケリブに対することばです。でも、なぜ【主】はセナケリブについてのことばを語られたかという、ヒゼキヤが【主】に祈ったからなのです。21節のヒゼキヤに対する【主】のことばを読んでみましょう。赤字の部分だけ読みます。

**37:21** アモツの子イザヤは、ヒゼキヤのところに人を送って言った。「イスラエルの神、【主】はこう言われる。『あなたはアッシリアの王センナケリブについて、わたしに祈った。』

なぜ【主】がこのようにあえてヒゼキヤの祈りを取り上げておられるかという、ヒゼキヤがセナケリブに対して祈ったからこそ、【主】はセナケリブに対する預言を与えられたからです。事実、【主】はセナケリブに付いての預言の中で、セナケリブの【主】への暴言が【主】の耳に届いたとっておられます。29節前半

**37:29a** おまえがわたしに向かっていきり立ち、おまえの安逸がわたしの耳に届いた

みなさん、だから祈りが大切なのです。神様はすべてのことに主権をもっておられるお方ですが、私達の祈りをちゃんと聞いて、それに答えてくださるお方なのです。特に、このヒゼキヤのようにただ助けてください。と祈るだけではなく、すべての王国の神である【主】が世界に知られることを求める祈り、言い換えると【主】の栄光を求める祈りをするのならば、【主】は答えてくださるのです。

## 2. 【主】はすべての王国の神である。

もう一つ、今日の箇所からわかることは「【主】はすべての王国の神である」ということです。16節をもう一度読んでみましょう。

**37:16** 「ケルビムの上に座しておられるイスラエルの神、万軍の【主】よ。ただ、あなただけが、地のすべての王国の神です。あなたが天と地を造られました。

ヒゼキヤは神様のことを3つの表現で告白しています。

一つは「ケルビムの上に座しておられるイスラエルの神」です。「ケルビム」とうのはアダムとエバがエデンの園を追い出された後、人がいのちの木から取って食べないように、その木を守るために据えられた天使であり、イスラエルが大切にしている契約の箱の蓋に据えられている天使です（図参照）。エゼキエル書では4つの顔を持つ天使として描かれていますが、イザヤ書では「ケルビムの上に座しておられるイスラエルの神」と書かれているので、恐らくこの図のような契約の箱のケルビムの上で【主】が栄光を現される様子をイメージして「ケルビムの上に座しておられるイスラエルの神」と表現しているのだと思います。つまり、「神様は、イスラエルと契約を結んでおられる神様だ」ということですね。

2つ目は「万軍の【主】」（16節）これはその言葉の通り、この世の軍隊に優る力を【主】が持つておられるということです。

そして、3つ目が「地のすべての王国の神」です。続く「あなたが天と地を造られました。」というのは、神様は世界の創造主なるお方だから「地のすべての王国の神」です。ということをお願いしたいのだと思います。

【主】は確かにイスラエルの契約の神であり、この世のどの王国よりも力を持つ万軍の神様です。しかし、この神様は【主】を信じない国にとって無関係な神ではなく、寧ろ、【主】はイスラエルだけではなくすべての王国の神様なのです。

【主】はすべての王国をご支配されておられます。だからこそ、【主】はアッシリアに対してこのように言われていました。26節

**37:26** おまえは聞かなかったのか。遠い昔に、わたしがそれをなし、大昔に、わたしがそれを計画し、今、それを果たしたことを。それで、おまえは城壁のある町々を荒らして廃墟の石くれの山としたのだ。

アッシリア王セナケリブは24－25節に書いてあるように、自分たちは多くの戦車を率いてレバノンを制圧し、荒野でも自由井戸をほって水を得、エジプトさえも足の裏で屈服させた。と誇っていました。

でも、セナケリブがどんなに自分の功績を誇っていたとしても、それらすべて、【主】がさきに行っていたことであり、神様がそのようになるように計画されたことの結果でしかなかったのです。

すべての王国の神なるお方は、当然、アッシリアのすべて、セナケリブのすべてを知っておられ、その上でご自分のみ心の通りに動かしておられたのです。だから、【主】はセナケリブに対していわれています。28節

37:28 おまえが座るのも、出て行くのも、おまえが入るのも、わたしはよく知っている。わたしに向かっていきり立つのも。

アッシリアの戦いだけでなく、座るのも立つのも、全部神様の御手の中にあつたのです。そして【主】は更に言われます。29節

37:29 おまえがわたしに向かっていきり立ち、おまえの安逸がわたしの耳に届いたので、わたしはおまえの鼻に鉤輪を、口にくつわをはめ、おまえを、もと来た道に引き戻す。』

鼻に鉤輪を、口にくつわをはめというのは、アッシリアを家畜のように扱う事を意味しています。この世で世界帝国として権勢を誇ったアッシリアであっても、【主】にとって家畜同然なのです。なぜでしょうか、イスラエルの【主】、私達の【主】は、信仰者の神だけでなく、すべての王国の神だからです。

### 3) 適用

【主】は祈りに答えてくださるお方であり、すべての王国の神なるお方です。このことを私達の人生に適用するとしたらどうなるでしょうか。

まずは、何があっても最初に私達の祈りを聞かれる【主】に祈るべきだということです。しかもただ自分を救ってくださいというだけではなく、【主】の栄光を求めて祈るべきなのです。

ヒゼキヤは自分たちのピンチに直面したとき、【主】に救ってくださいと祈り求めました。しかし、ただ助けを求めただけではなく、【主】に対する信仰を告白し、自分の現状を告白し、それから助けを求めたのです。みなさん、この祈りの順番も大切です。

みなさんは、【主】に助けを求めるとき、自分が【主】のことをどのような神様と信じているか、告白して祈っているでしょうか？ そして、自分が置かれた現状を素直に告白しているでしょうか？ ただ、助けてくださいではなくって信仰告白を伴った祈りをしましょう。その上で、ただ助けを求めだけでなく、それによって【主】の栄光が現れることを求めることです。

私達の究極的な祈りは、ただ自分たちだけが助かるのではなく、【主】の栄光が現

されることなのです。みなさん、【主】の栄光を求め、その上で【主】に助け求める祈りをしましょう。

もう一つ今日の箇所から適用したいことは、**高ぶらずにへりくだって歩む**。ということです。

アッシリアは自分たちの成功を自分たちの栄光として誇りました。

しかし、アッシリアの栄光はすべて神様のご計画の中の出来事だったのです。それは私達に当てはめても同様です。私達の成功はすべて、「すべての王国の神」である【主】のご計画の中にあります。【主】の導きなしに私達が自分の力だけで成功できていることは一つもありません。だから、私達は【主】の前に驕り高ぶるのではなく、寧ろへりくだることが大切なのです。

【主】は私達を地上の王に据える事ができるお方であり、同時に家畜のように扱うことができるお方です。

みなさんは、その【主】の前に相応しい歩みをしているでしょうか。

そして、最後の適用は、「**地のすべての王国の神を世界が知るように祈る**」ということです。

ヒゼキヤは地のすべての王国が、【主】だけが唯一の神であることを知るように祈りもとめました。

そして、神様はその祈りに答え、アッシリアの成功は全部神様のご計画の中にあることを伝え、思い高ぶったアッシリアを家畜のように扱おうと宣言されました。

神様が、地のすべての王国の神であることは、世界中の者が知るべきことなのです。

私達は、このすべての国の神なるお方が、すべての人々に知られるように祈っていきましょう。